普及活動情勢報告（平成１８年６月分）

安芸農業振興センター　農業改良普及課

１　情勢報告

芸西村小学校で出前授業が開催された
－地域ぐるみでハスモンヨトウ防除－

環境保全型農業について授業中

芸西小学校３年生を対象に、総合学習の時間を利用して「地元の農業を知り、環境保全型農業に一役買ってもらおう」と、６月２日に出前授業を行った。地元の農業への取り組みに興味をもち、特に天敵昆虫には感心がある様子で、名前を覚えようとする生徒もいた。この授業のカリキュラムでは、今回を含めて合計７時間で、ハスモンヨトウの誘引トラップの製作や設置・回収等を行う予定である。授業については青年農業士や園芸研究会、ＪＡと協力しながら進めていく。

芸西村で幼稚園児のピーマン収穫体験・試食交流会が開催された

小さな身体をいっぱいに伸ばしてピーマンの収穫中

地元野菜をＰＲしようと、高知大学教育学部附属幼稚園児とその父兄、および芸西幼稚園児を迎えて、野菜の収穫体験・試食交流会を６月１５日に開催した。はじめにピーマンの収穫体験をおこない、地元野菜の料理の試食、芸西村の農業の紹介、紙芝居「やさいをたべよう」にひきつづき、地元の幼稚園児が「ピーマンボダンス」披露し、交流した。当日は大雨であったが、園児たちは袋いっぱいにピーマンを収穫し、料理もほとんど完食した。帰り際に、附属幼稚園児は芸西幼稚園から、メッセージと野菜の土産をもらい、笑顔いっぱいで帰途についた。

この事業は、芸西園芸研究会が主体となって毎年開催されており、関係機関（ＪＡ、村、振興センター）が協力して、今回で７回目になる。来年度も同様のイベントが開催される予定である。

JA 土佐あき柚子部北川支部総会が開催された

たくさん集まりました。

総会は部員８５名の出席のもと、１７年度事業報告、１８年度の事業計画が活発に討議された。振興センターからは、前日から始まったポジティブリストの制度と飛散防止についての説明を行った。特に青玉出荷用に対する稲散布農薬のドリフトへの関心が高く、「どれくらいたったら安全なのか」等活発な質疑があった。また、高知大学の教授より、実生ユズ分析結果の発表や実生ユズの食味テストを行い、盛況のうちに終わった。

今後は、承認されたカラーリング処理庫の増台に伴い、サンテ被覆処理などによる出荷率アップに向けた技術支援を行う。

安芸市川北地区ポジティブリスト説明会を開催した
―みんなで取り組もう！！ポジティブリスト対策―

「農薬を散布する時には、
連絡しあおうや」
「お互い様やきねえ」

安芸市川北地区の全農家を対象とした「残留農薬に関するポジティブリスト制度説明会」が約５０名の参加者で開催された（5月３０日)。振興センター職員が、制度の概要を説明や具体的な対策を説明。特に、薬剤散布時にはドリフト対策を徹底するともに、周辺の生産者同士で連絡し合うことが大切であると呼びかけた。

参加者からは、「不安が先行していたが、今回きちんとした話が聞けてよかった」「どんな条件で散布したら、どれだけ飛散するのか、そういった具体的なデータが欲しい」といった意見が寄せられた。

これから本格的な水稲防除シーズンに入ることもあり、地域全体で飛散防止対策に取り組んでもらうよう、継続して呼びかけていく予定である。

コナジラミ類の土着天敵利用勉強会を開催！！

安芸農業振興センター主催により、６月１６日（金)、安芸総合庁舎会議室でコナジラミ類の土着天敵の勉強会を開催し、ＪＡ土佐あき営農指導員や農家など約４０名が参加した。

勉強会の講師に、高知大学大学院生と県農業技術センター研究員を迎え、クロヒョウタンカスミカメやキイカブリダニなどの生態や特性について講義を受けた。その後、総合討議を行い今後のコナジラミ類防除対策への活用方法を参加者全員で検討した。

参加農家からも「次作はコナジラミ類対策で土着天敵の利用も考えてみようかな」という声も出て、意義のある勉強会となった。

今後も、機会を見つけてこのような会を開催し、コナジラミ類対策を推進していく予定である。

ＪＡ土佐あきユズ部吉良川支部現地検討会

ＪＡ土佐あきユズ部吉良川支部では、６月１２日・１３日に、吉良川地区・羽根地区の３カ所で現地検討会を開催し、合わせて４０名余の農家が参加した。

今年の作柄は表年傾向でありその対策となる摘果方法と、カラーリングの準備について指導を行った。

黄玉出荷農家からも「今年はカラーリングを実施してみようかな」という声も出て、意義のある現地検討会となった。

今後も、現地検討会等により、高単価が望めるカラーリング栽培を奨励していく。